



東京・渋谷に1校のみ。授業開始を待つ生徒を背に大町代表。

英語一筋45年。東大合格率80%を超える伝統校 平岡塾

対象 中1～高3、社会人も可、英語のみ

1965年、創立者の平岡芳江さんが筑波大駒場中学に通うご子息やその友人に英語を教えたことから始まる英語専門塾。開成、筑波大駒場、麻布、桜蔭など一流校の生徒が塾生の半数以上を占める。創立以来、東大合格率は常に80%以上(2010年度は144名合格)。抜群の実績を誇る平岡塾の教育方針はいかに? 代表の大町慎浩さんに聞いた。

——塾の特徴を一言で
大町 明治以来の英学の伝統を踏まえて、折り目正しい品格のある英語を教えたい。創立以来、教え方は変えていない。たとえばラッセルなど、昔の教材には名文・美文が多く、そういったものは進んで読ませる。流行は追わない。むしろ、「変えない」ことを強く意識している。

——どのような教え方を
大町 文法・英作・読解のオリジナルプリントを宿題として出し、授業で解説する予習主義。1回3～4時間の授業

のうち、40分は外国人講師が入る。「聞く・話す」面だけでなく、自由英作やエッセイ・ライティングなどの基礎も指導している。

——英語は誰でも伸びるか
大町 語学は本来、学(study)というより術(art)。音楽やスポーツに近い面がある。常に基本に立ち返り、正しいメニューで量をこなしていけば、実力は必ず向上する。

——変わった教室だが
大町 昔から。畳に机を置いて、床に座って授業を受けてもらう。授業中の飲食も自由。寺子屋と呼ばれている。

年間でおいくら?

中1～高2 英・数 3時間
週1 1万6000円
年間換算 19万2000円

高3 英・数 4時間30分
週1 2万1000円
年間換算 25万2000円

入塾テストなし(高3のみクラス分けテストあり)。入塾金2万5000円。講習は春・夏・冬(各1万5000～2万1000円)。教材費は1万7878円(中1～高3の総額)。年間換算は編集部にて計算(月謝の12カ月分)。

講師は全員東大卒か東大生。入試対策のプロ集団

鉄緑会

対象 難関中高一貫校の中1～高3(大阪校もあり)

1983年、東大医学部、法学部の学生・卒業生によって設立。マスコミにあまり登場せず、知る人ぞ知る名門塾。2010年度の合格実績は東大282名(うち理III23名)、国公立大医147名、慶應大医49名など。会長の富田賢太郎さんが強さの秘密を語る。

——なぜ、それほど強いのか
富田 講師の質にこだわっている。全員が東大卒か東大生。そのなかでも特に優れた学力を持ち、教育に関心のあることか採用の条件。基準が厳しいため、なかなか採用できない。授業の進め方は、教えた内容を宿題で復習させる。わからないことは次週に聞いてもらう。絶対に積み残さない。

——指定校制度がある
富田 指定校の生徒は新中1春に先着順で入会いただいている。それ以外の学校の生徒には入会テストを受けてもらうが、競争率が高いのが実情。

——授業料は高いのか
富田 少人数制で、優れた講

年間でおいくら?

中1～3(オープンコース) 英・数
週1 180分 週1 2万8010円
年間換算 33万6120円

中1～3(レギュラーコース)
英・数 週1 180分 週1
3万3310円
年間換算 39万9720円

高1 英・数 週1 180分 週1
3万3310円
年間換算 39万9720円

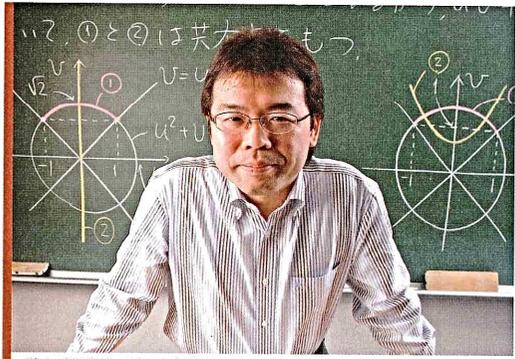
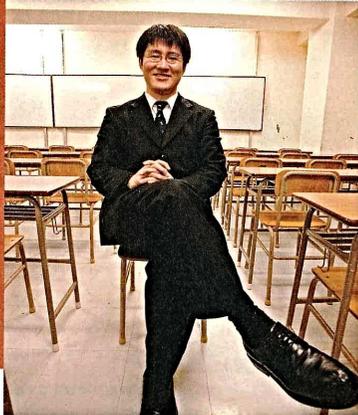
高2 英・数・物・化 週1 180分 週1
5万3410円
年間換算 64万920円

高3 英・数・物・化 週1 180分 週1
5万9150円
年間換算 53万2350円

指定校制(大多数は中1で入会。入会テストは年4回。入会金2万円。教材費は1科目年間2万円程度。春、夏、冬の長期休み期間中および祝祭日も通常授業実施。レギュラーコースは1クラス16名程度の特別選抜クラス。年間(全4回)換算は編集部にて計算(月謝の12カ月分)。高3(全38回)は9カ月分で換算。

師を揃え、居残り指導も行う。高3生には個人面談も頻繁。講習は必須ではなく通常授業で完結する。時間と密度を考えれば適切ではなからうか。

閑夜にぼっかり浮かぶ東京・代々木の本校(P.82)にて。数学担当の蓑田恭秀先生。数学は中3までに高校の全課程を修了させる。高校の3年間は東大対策に集中する。



駿台予備学校が誇る人気数学講師の雲幸一郎さんもここで教鞭を執る。

約半数が桜蔭生! 入会に面接を課す次世代塾

東大進学塾エミール

対象 中高一貫校の中学生・高校生

大手予備校・駿台の名だたる有名講師陣が集い、立ち上げた少人数制の進学塾。「人間形成」を標榜し、入塾には面接試験がある。なぜ、面接が必要なのか。石川正マネジさんに聞いた。

——面接があるのは珍しい
石川 東大受験で地方公立高が奮闘している。東大も地方で大学説明会を開くなど、バラエティーに富んだ地方の優秀な子をとりたいという方向性が明確。首都圏私立に危機感が増している。言葉は悪いが、「温室育ち」ではいけない。受験のためのテクニックを教えるのではなく、将来につながる学ぶ姿勢、学ぶときの考え方なども教えたい。だからこそ、こちらの理念を理解してくれる生徒に入ってもらいたい。面接では、なぜ東大に入りたいのか、熱意を語ってもらいたいこともある。

——授業の中は
石川 1クラス25人前後の少人数制。講義形式だけで終わ

るのではなく、講師が宿題やテストの添削・指導を通じて一人ひとりをチェックする。——在籍生の学校は
石川 御茶ノ水という場所柄、桜蔭が約半数。開成、麻布、女子学院、筑駒が続く。

年間でおいくら?

中1～3 英・数 150分+α
週1 43 3万9200円
年間授業料 47万400円

高1 英・数・読解と表現
150分+α 週1 年46
4万7000円
年間授業料 56万4000円

高2 英・数・理科 2
150分+α 週1 年46
5万3800円
年間授業料 64万5600円

高3 英・数・理科 2
150分+α 週1 年40
6万6500円
年間授業料 73万1500円

入塾試験あり(面接も)。入塾金2万1000円。夏・冬にスポット授業あり(年間2万円程度)。教材費は授業料に含む。高2、高3は理系コース。高2文系コースは理科に代わり国語。高3文系コースは数学に代わり国語。理科に代わり地歴を選択(同価格)。年間授業料は中1～高2は12カ月分、高3は11カ月分で計算。

受験対策は高3から。それまでは学ぶ

SEG

対象 中1～高3

1981年、東大数学科の卒業生有志が「大学入学後も役立つ教育をする場」として設立。当初は数学塾だった。創設者で、代表の古川昭夫さんにSEGの特色を聞いた。

——どんな授業を
古川 学ぶプロセスを大切にしている。たとえば、数学であれば、四則計算の背景にあるものをイメージでつかませる。たとえば、 -2×-3 がなぜ6なのか。「2も3も減っていくタンクがあるとすると。3時間前は今日より何れ多いか」とイメージさせる。考え方をしっかり教えておくと、あとで応用が利く。受験対策も重要だが、SEGでは高3から。それまでは、学ぶ楽しさを第一に考えている。

——英語教育にも力を?
古川 英語多読コースを2005年から本格的に開講している。多読は母語で普通に読むときのように、わかる箇所をつないで読む方法。中高6年間の教科書に収録されているのは

年間でおいくら?

中1～3 英・数
週1 1 4万
年間授業料

高1 英・数・物
週1 1 5万
年間授業料

高2 英・数・物
週1 1 8万
年間授業料

高3 英・数・物
週1 1 6万
年間授業料

入会テストあり。入夏・冬の講習費用。れる。年間授業料は講習の授業料をまと月謝は編集部にて計算。高3の物・

せいぜい3万は年間40万語つめば、楽になる。東大入試になるだろう。TOEIC80もいる。

「英語多読」の授業。古川代表自ら指導。少人数制で雰囲気よく



英は受講科目、②は1コマあたりの時間、③は1教科あたりの回数、④は月謝(編集部で独自に計算)